

【オリコンサルら AIで石礫自動判別 砂防事業の調査省力化】

AIで石礫自動判別

砂防事業の調査省力化

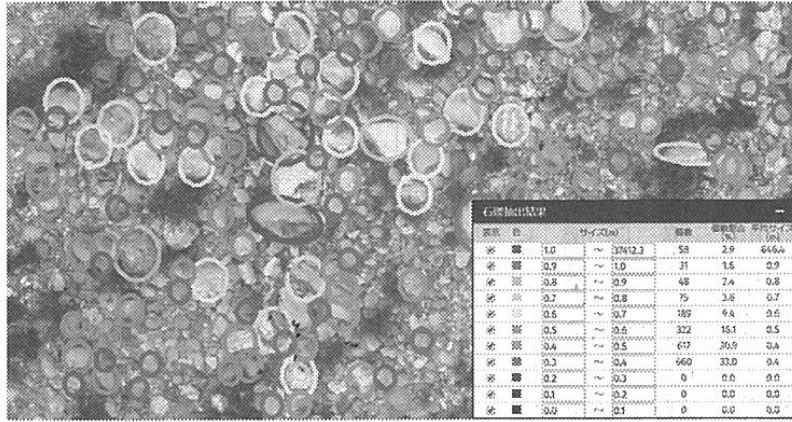
オリコンサルら

オリエンタルコンサルタ
ンツらが、人工知能（AI）
を活用し砂防事業で行う

「石礫（せきれき）」の調
査を省力化する技術を開発
した。ドローン（無人航空
機）で取得した空撮画像を
クラウドサーバーに集約。
3D点群データや数値標高
モデル（DSM）などを使
い、地形データを生成した
上で石礫の有無やサイズを
自動で判読する。人力に比
べて判読結果を高精度に抽
出できる。

石礫調査を省力化する技
術は、同社と産業用のリモ
ートセンシング・サービス
を展開するスカイマティク
ス（東京都中央区、渡邊善
太郎社長）が開発した。判
読方法はクラウドサーバー
にドローンで空撮した複数
の渓流画像を集約する。地
形の高低差を示すDCM画
像や3D点群データを基
に、地形データを自動で生
成する。独自に開発したA
Iを活用し石礫の大きさや
数、位置を自動で計測。抽

出結果をレポート
にまとめる。
れることなく、調査でき
るといっ。



AIを活用した石礫の判別イメージ

オリコンサルは
河川の下流域に流
れ込む土石流の流
出防止を目的とす
る砂防事業に開発
した省力化技術を
導入。砂防施設の
設計や災害時に発
生する渓流の状態
変化の把握につな
げる。人力で行っ
ていた従来手法と
違い、判読結果の
精度が格段にアッ
プする。二次災害
の恐れがある危険
箇所には足を踏み入